

第1回水稲病害虫発生状況の調査結果について

兵庫県農業共済組合佐用事務所
JA兵庫西佐用営農生活センター
光都農業改良普及センター

令和4年6月27日

1 水稲の生育状況

今年の気象状況を見ると、5月中旬の気温は平年より高かったもののそれ以降はほぼ平年並で推移しています。梅雨入りは平年より8日遅い6月14日となりましたが、日照時間は平年並で推移しています。降水量は平年より少なめで推移しています。

水稲の生育は5月上中旬の早い田植え、5月末以降の田植え共に平年並でおおむね順調です。

2 調査結果(調査日6月24日)

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
紋枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
縞葉枯病	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ウンカ類	一部の圃場で発生が見受けられました。
ツマグロヨコバイ	調査圃場では、発生が確認されませんでした。
ニカメイチュウ	調査圃場では、発生が確認されませんでした。

3 これからの管理について

- ① 兵庫県病害虫防除所が6月10日に出した「病害虫発生予報第2号」ではヒメトビウンカの発生予想はやや多、葉いもちの発生予想は平年並となっています。6月14日、6月15日にいもち感染好適条件の日がありました(BLASTAM情報)。
- ② 5月上旬田植えの水稲では、これから箱施用剤の効果が薄れてくるため、今後降雨や曇天が続く場合はいもち病が広がる心配があります。常発地帯ではこまめにほ場を観察し、必要であればウンカ防除も含めてコラトップトレボン粒剤(3~4kg/10a)を早めに散布しましょう。また、補植用の苗はいもち病の発生源になりますので、すぐにほ場から持ち出し処分して下さい。
※ 田植え時に箱施用剤を施用していないほ場は特に注意しましょう。
- ③ 5月上中旬田植えのコシヒカリ、キヌヒカリは、最高分けつ期を迎えようとしています。一株当たりの茎数が18~20本になったら、中干しを実施して下さい。但し、いもち病発生ほ場は中干しを強く行うと病気を助長するので、中干しは軽めに行うようにして下さい。